

オンライン教育は
日本をどう
変えるのか？

西岡 孝誠

高校生の
3人に1人が
オンライン通学
する日も近い!?

史上最多の30万人が
通信制高校に通う現在、
オンライン教育の可能性と未来予測を
教育ベンチャー社長が語り尽くす!

オンライン教育で日本はどう変わるのか？

西岡 吉誠

星海社

335



SEIKAISHA
SHINSHO

はじめに **オンライン化が教育を、社会を変える**

みなさんはオンラインで勉強したことはありませんか？

この質問に対して、30代前半までの人の多くが「NO」と答えると思います。

しかし、今の10代は、オンラインでの勉強をしたことがない人の方が珍しくらいです。この数年で、教育業界は大きな変化を迎えているのです。

2025年現在、日本においても世界においても、オンライン教育は非常に大きなムーブメントになってきています。EdTech（エドテック＝教育工学）という、エデュケーションとテクノロジーを掛け合わせた造語が作られるくらい、さまざまな教育用アプリケーションが誕生しました。授業動画が見放題になる「スタディサプリ」や、学習記録を付けることができる「スタディプラス」などのオンライン教育ツ

ルが今では当たり前前のものになっています。

そしてその流れの中で、文部科学省が教育のデジタル化を進める施策「GIGAスクール構想」を推進しています。「GIGA」は「Global and Innovation Gateway for All」の略で、全ての子供たちにICT（情報通信技術）を活用した学びの機会を提供しようとするこの試みは、コロナ禍も経てかなり進んできました。

小中学校、そして高校でも、今では生徒1人につき1台のタブレット端末やパソコンが配布されています。1人1台の端末があるため、それぞれの生徒がAIドリルやデジタル教材を使い、生徒一人ひとりの理解度に応じた学習を進められるようになり、個別最適な学習が実現しています。そして教育のオンライン化に伴い、校内のWi-Fi環境や高速ネットワークの整備が進み、Google Classroom や Microsoft Teams などのクラウドサービスと契約して、オンライン授業や課題の提出、先生と生徒のコミュニケーションがデジタルで行えるようになってきています。

そして、オンライン教育のムーブメントの中で、日本では「通信制高校」が非常

に成長し、多くの生徒数を抱えるようになっていきます。オンラインとオフラインの学びをハイブリッドにした教育機関として、日本全国さまざまな場所に校舎を置いている通信制高校に、2025年現在、高校生の11人に1人が通っています。また、この勢いは今後どんどん加速していくと考えられます。

このままのスピードで通信制高校に通う生徒が増えるのであれば、日本の高校生の3分の1が通信制高校で学ぶ未来が来るという予想もされています。

でも、ここで疑問が生じます。

オンラインで学んだ生徒が今後増えていくとして、その人たちはどんな大人になるのでしょうか？

その人たちが作る社会はどんなものになっていくのでしょうか？

後述しますが、オンラインで学ぶ仕組みが小・中学校にも広がっており、大学も全てオンラインで完結するものも登場してきています。もう少しすると、「僕は小学

校から大学に至るまで、基本的にはオンラインで勉強してきました。学校に通ったことも、校舎で対面授業を受けたこともほとんどありません」という新入社員がたくさん入社する時代が到来するかもしれないのです。そんなオンライン教育時代に、日本社会はどう変わっていくのでしょうか？

「別に何も変わらない」と言う人もいます。世界を見わたすとアメリカではホームスクーリングは当たり前であり、学校の校舎に毎日通う生徒の方が珍しい州もあるくらいです。

「コミュニケーションが取れない新入社員が増える」と言う人もいます。オンラインでのやりとりばかりしている人たちなんて、社会に出てから使い物にならないんじゃないかと懸念する社会人もいると聞きます。

僕は、そのどちらもが間違っているんじゃないか、と思います。オンライン教育が社会に与えるインパクトは絶対にあるでしょうが、マイナスな出来事もあれば、プラスな出来事もあるのではないのでしょうか。

これから日本のオンライン教育はどう変わっていくのか、逆にオンライン教育は日本をどう変えていくのか？

これについて、みなさんと一緒に考察していきたいと思います。それでは、スタートです。

目次

はじめに オンライン化が教育を、社会を変える 3

第1章 オンライン教育との出会い 13

 コロナ禍の一斉休校時にはじめてオンライン授業をする 14

 オンライン授業で得られた発見 17

 オンライン教育の驚異的な普及 21

第2章 「通信制高校」で飛躍的に広がるオンライン教育 25

 1990年代から広がりはじめたオンライン教育 26

高校生の11人に1人が通信制高校でオンライン教育を受ける時代 29

通信制高校と全日制の高校、普通科の高校の違いとは？ 35

通信制高校の人気が高まる背景 44

通信制高校は私立が多い 49

データで見る通信制高校 55

実際に通信制高校を取材してみた 61

オンラインもリアルの一部？ 64

中学も「通信制」が主流に？ 68

大学もオンライン 69

オンライン教育での学びは自由度が高い 72

授業動画はザッと流せる 77

授業動画はピンポイント学習が可能 79

授業動画のデメリット 81

スマホ学習は学習効果が下がる？ 84

ウェビナー（ライブ配信型授業）のメリット 87

オンラインだと生徒が意見を言いやすい 89

オンラインツールの大躍進 93

筆者が経験したオンラインツールでの大失敗 97

内輪ネタが多いと荒れやすい？ 99

「教育版ライザップ」ことオンラインコーチングの成長 104

オンラインコーチングのメリット 105

生徒のモチベーションがないとオンラインコーチングの効果は出にくい

オンラインコーチングのもう1つの弱点 112

オンラインコーチングで伸びる生徒の特徴 115

第4章

オンライン教育ではどんな大人に育つのか

119

オンライン授業に慣れることは将来の力になる 121

通信制のデメリットは部活が充実していないこと 125

時間があるので将来を早くから考えられる 129

最新の大学受験とオンライン塾の相性がいい理由 133

「通信制高校は大学進学が心配だ」という懸念は正しいか 136

オンライン教育の今後の展開 140

第1章 オンライン教育との出会い

コロナ禍の一斉休校時に はじめてオンライン授業をする

教育ベンチャー企業「カルペ・デイエム」を経営している僕が「オンライン教育」を提供する立場になったのは、2020年2月のコロナ禍の時期でした。

当時、僕は東京大学の学生としてインターンやバイトを掛け持ちしつつ執筆活動を行っていて、まだ会社の立ち上げすら行っていませんでした。そんな中で、2020年2月末に学校が一斉に休校してしまうことが決まり、全国の小中学生・高校生が「いきなり学校が休みになってしまった」「勉強したいのにできない」という状況に置かれてしまいました。

最初は「うわあ、大変だなあ」と他人事のように思っていたわけですが、休校が

決まった日の夜に、僕がお手伝いしている学校の先生からこんなことを聞かれました。

「ねえ西岡くん、オンライン授業ってどうやって配信すればいいのか知ってる？」

当時、学校ではオンライン授業なんて1ミリもやっていないところが多かったの
で、学校の先生はZoomの使い方方もわからなければ、YouTubeでのライブ配信授業
のやり方も全然わかっていなかったのです。

僕も当時、そんなことは全然わからなかったわけですが、その先生の話聞いて
から配信のやり方を調べて、必要な機材を買っている時にふと、こんなことを思い
ました。

「東大生の友達を集めて、新型コロナウィルスで学校が休校の間、オンラインの生
配信授業をやったら面白いんじゃないやねえの？」

ということ、5年前の僕は、サークルのメンバーみんなに声をかけました――

「なあ、みんなでオンライン授業やらない？」と。

ボランティアであるにもかかわらず、多くの東大生がこの取り組みに参加してくれて、東大生による生配信型YouTubeチャンネル「スマホ学園」を作ることができました。

「毎日10時から15時まで生配信授業を行います。小学生から高校生まで幅広く見てもらえる勉強動画を目指します、みなさんぜひ来てね！」とSNSで拡散し、3月頭の月曜日から、ついに授業を開始します。

最初は画質も音質も悪い生配信だったのですが、そんな悪条件にもかかわらずこの取り組みは予想外の大成功を収め、連日100人以上の学生が集まり、テレビにも取り上げられました。

その後1ヶ月間、僕自身が授業をしたり、友達に授業をしてもらったりして、毎日のように生配信授業に携^{たずさ}わる日々でした。小学生でお母さんと見ている人もいるかと思えば、高校生で受験生の頭のいい子も見に来てくれて、連日のようにいろん

なコメントをいただくことができました。金にならない（どころか、運営費が嵩むかさ）
でマイナス）ボランティアな活動ではありましたが、オンラインで勉強を教えるとい
うのは初体験で、僕にとつては「こんな風にすればいいのか!」「オンラインつてこ
ういう感じなんだ」と、学びが多い時間でした。

オンライン授業で得られた発見

この本を読んでくださっているみなさんのうち、多くの方は「ウェビナー（ウェブ
セミナー）」というものを体験したことがあると思います。しかし2020年時点
ではそんな経験はほぼなかったもので、とにかく手探りでやらざるを得ませんでした。
まずそもそも、「授業動画を一方的に流すべきか、双方向的にコメントを入れるべ
きか」ということが議論になりました。今では授業動画はコメントがつく場合も少

なくありませんが、当初は「別に授業を流すだけでいいんじゃないか、コメントとか拾ったりしなくてもいいんじゃないの？」という意見もあったのです。しかし、「いや、受講者のコメントを拾った方が一体感も出るし、授業に一層のめり込んでもらえるのではないか」という結論になりました。

Zoomではなく、YouTubeだったからこそその良さというのもありました。Zoomセミナーを想像していただけるとわかると思いますが、Zoomだと心理的ハードルがあるのであまり受けた授業の感想を語ることはなく、せいぜい質問を投げかける程度だと思えます。

でもYouTubeだと、あまり固くならず、動画のコメント欄に書き込むような感覚でかなり気軽に自分の感想を書いてくれるんですね。「へー」とか「知らなかったなー」とか「それ、この前の授業でも聞いたかも!」とか、そういうコメントがたくさんありました。

そして驚いたのが、運営開始から2日目のことです。2日続けて授業を見に来て

くれた生徒の1人が、ほかの人の少しふざけたコメントやネガティブな発言に対して「そういうのは良くないよ」「ふざけてないで、ちゃんと聞こうよ」とコメントしたのです。そしてそれをほかの生徒が、「あつ、学級委員だ!」とはやし立てました。そして次の授業までの空き時間には、「あつ、○○さんだー」とか「みんなお昼何食べた?」と、リアルな学校のような盛り上がりを見せるようになったのです。

僕たちは何も特別なことはしていません。ただ、コメント欄を読み上げることでコミュニティの形成を後押ししただけです。それだけで、実際の教室のような盛り上がりが見られるようになったのです。

コメントの盛り上がりを見て、僕たちは授業の中で必ず問題を出して、「コメント欄で回答を教えてください」と促すようになりました。そうすると、多くの生徒がクイズ感覚で答えてくれます。コメント欄では「誰が一番早く答えられるか」というゲームが始まり、一番に正解した人のコメントとユーザーネームを読み上げると、その人が「やった!」と喜びのコメントを打ち、それを見ている人は「おめでとう!」

「自分も惜しかった！」などとリアクションするのが見られました。また、答えが複数ある問題を出すと、自分だけでなくほかの生徒の回答も見られるので、「あっ、そんな回答もあるんだ！」と他者の考えを共有できる、いい機会にもなりました。

驚いたことに、後日この生徒たちと会って話したら、学校ではあまりお喋りなタイプではなかったんですね。リアルな学校ではそんなに積極的に発言しないけれど、このYouTube授業の中では積極的に発言している。普段学校で見せているのは違う一面が、オンライン授業で発揮されることがあるのです。

実はこのような話、ほかの学校の先生からも聞いたことがあります。Zoomでオンライン授業をやったら、教室ではいつもあまり発言をしない生徒が積極的にコメントをしてくれたり、さらには不登校気味な子が意見をくれたりした、と。

このように、オンライン授業ならではの良さというものが確実に存在するのです。「オンライン教育は、きっとこれからどんどん主流になっていくはずだ。もっと積極的に取り組んでいこう！」

手応えを感じた僕が、そう決意を固めたのが2020年の春でした。

オンライン教育の驚異的な普及

そして、2025年現在。オンライン教育は日本中に、そして世界中に広まっています。

日本の高校生の11人に1人は通信制高校を選ぶようになりました。また、生徒たちは1人1台のタブレットを配られるようになって、タブレットでの学習をメインで行うようになりました。課題の提出もオンラインで行うことができますし、質問もオンラインでできます。それどころか、生徒が書いているメモを先生が見ることもできます。

エドテック（教育工学）と呼ばれる分野は日進月歩です。

今では、小学校を卒業してしまえば、中学校はフリースクールに通い、高校は通信制高校に通い、大学もネットで学べる大学を選んでしまえば、中学以降の学びは全てオンラインで完結させることもできるようになっています。

でも、その反動もあります。オンラインだけだと学力は上がらないのではないかという意見もありますし、実際、普通科高校より通信制高校は進学実績が良くないケースも見られます。

一体、オンラインで学ぶのが当たり前になった世の中で、どう勉強を組み立てていくのが正解なのでしょう？

そして、オンライン教育が常識になった世代が社会で活躍するようになったとき、どのようなことが発生するのでしょうか？

本書では、オンライン教育のことを肯定的にも否定的にも紹介します。当たり前ですが、どんな物事にも、良い面も悪い面もあります。良い面と悪い面、どちらか

に偏るのではなく、両方に触れていこうと思います。

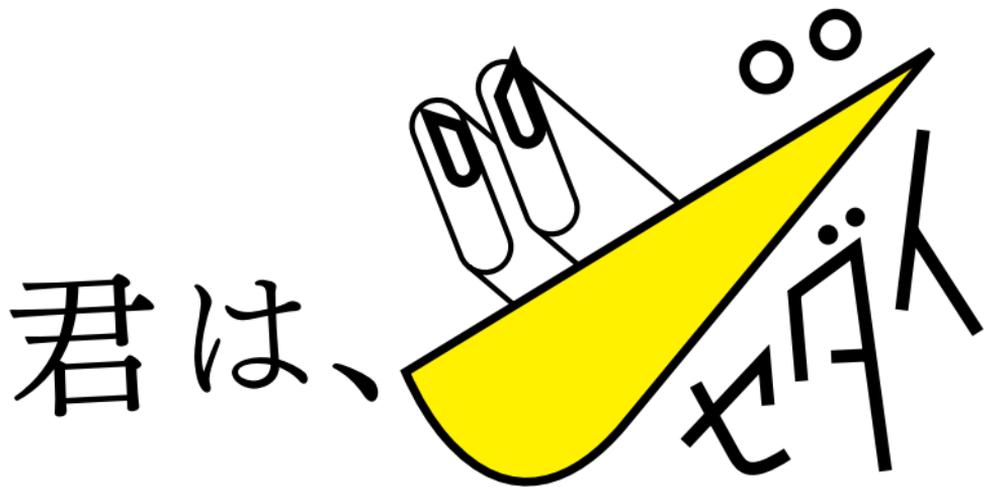
とはいえ、唯一否定できないのは、「オンライン教育はこれからますます広がっていくだろう」という予測です。馬車がどんなに優れていて素晴らしいものだったとしても、車を使うようになってしまった時代に、馬車の使い方を学ぼうとする人は少ないでしょう。それと同じで、これからの時代はオンライン教育なしには考えられません。否定派であっても、オンライン教育の何たるかをしっかりと知る必要があるといえます。

2024年11月に実施されたモバイル社会研究所の調査によると、小学校高学年（5年生・6年生）のスマホ所有率は初めて50%を超え、52%に達しました。小学生の半分がスマホを持っていて、学校に行けば自分のタブレットがあり、授業でもスマホやタブレットを使って学ぶことが当たり前になっている時代をわれわれは生きています。

本書では、オンライン教育が現在どのように行われているか、そしてその功罪、

さらにオンライン教育はこれから世の中をどう変えていくのかを、読者のみなさんと一緒に考察していくことができればと思っております。

まずは第2章で、通信制高校を通じてオンライン教育の現在地を一緒に見ていきましょう。



君は、

ジセダイ

何と闘うか？

<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ
ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!